

講義名	中国語 B			授業形態	
担当教員	小山 櫻嘉	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。
中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が命といっても過言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんとならば、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。
テキストでは基本的に活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

到達目標

1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につける
2. 基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができる
3. 基本的な文の意味を理解でき、書くことができる

提出課題

必要に応じて課題提出を求めることがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授与した宿題や小テストの正解内容は授業中で解説する。

評価の基準

- 次の3点を総合的に評価します。
1. 授業態度 30%
 2. 小テストや中間テスト、課題提出など 50%
 3. 期末テスト 20%

履修にあたっての注意・助言他

外国語の授業は実践的なもので活発な取り組みを期待します。授業中の積極的態度は大いに評価します。最近では教科書を持って来ない人や、始終スマホを操作している人が見られますが、そのような消極的な授業態度は大きなマイナスポイントとなります。

教科書

・はじめよう楽々中国語	小林和代・韓軍	白水社	2200		
-------------	---------	-----	------	--	--

参考図書

その他

必要に応じて配布します。

授業計画

1. 第1課 半母音・声調・子音・軽声
2. 第2課 複合母音・鼻母音・発音のまとめ
3. 第3課 何月何日・何時
4. 第4課 あなは、どからの大学
5. 第5課 だれ？なに？これは-です
6. 第6課 いる・ある
7. 第3課～第6課のまとめ
8. 中間試験
9. 第7課 どこにいる・AそれともB
10. 第8課 どれくらいかかる・-するのが好きです
11. 第9課 いくら・なんよりもです
12. 第10課 -したい・どこで
13. 第11課 -できる・-したい
14. 第12課 -している・-したことがある
15. 第7課～第12課のまとめ
授業の進捗はクラス状況に合わせて適宜調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> E：グループワーク
<input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> C：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> K：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

みなさんにとって初めて学ぶ中国語は、当然のことながら、すべて新しく学ぶことばかりで、すべて一からこつこつと覚えていく必要があります。また、外国語学習は積み上げ方式なので、授業内容を毎回しっかり理解しなければ、それ以降の学習に影響します。ちよつとしたつまづきが元で、授業がつまらなくなったり、苦痛に感じるようになります。最低限、前回学んだ内容を復習し、次の授業に臨むことが求められます。特に単語は毎回しっかり覚えていきましょう。毎回授業終わる前に、予習と復習の内容、宿題、小テストの準備のための復習内容などを言います。これらの内容を完成するために、毎週予習復習する時間は4時間以上が要求されます。翌週の授業で、単語テストと文型或いは口頭試験などのテストを実施することがあります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
